

フェレットを迎えるなら…

・お迎えが決まれば、生活の準備と共に調べておかなければいけない事があります。ジステンバーやフィラリアなど、フェレットには致死性の高い病気の予防が必要です。これからの予防計画や健康診断をしてもらうため、「フェレットを診てもらえる」通院可能な動物病院を探しましょう。

また、急な体調変化に対応できる夜間救急などの場所もあわせて探しておきます。フェレットが環境に慣れてきたら、早い段階で健康診断に連れて行くようにしましょう。

- ・周囲の確認をゆっくりさせてあげましょう。
フェレットが家にやってきたら、早く触れ合いたい、抱っこしたいと思うでしょう。しかし、いきなり撫で回したり、奪い合って触れ合あうとしないで下さい。フェレットは知らない所にやってきて、興奮状態です。まずは、これからのお住となるケージにそっと入れてやり、休息をとらせ、周りの環境に慣らしていきましょう。
- ・フェレットの体は大変柔らかく、少々の隙間であれば入り込んでしまうことが可能です。ケージの外に出てあげるときは、危険な隙間や場所が無いか確かめ、入り込む前に塞いだりガードしておきましょう。また、フェレットにはあまり高さの概念がありません。危険な場所に上られない様にしておきましょう。
遊び場としてフェレット用のサークルを使用するのも良い方法です。



・優しく噛む方法など、お家のルールを教えてあげる時、すぐに上手くできないからと言って、『しつけ』と称して過剰な体罰を与えないようにしましょう。

『しつけ』は「根気」と「知恵比べ」と認識して下さい
あらかじめ興味を持たないように撤去や防護したり、匂いや味を付ける事で誘導すると良いでしょう。

過度の体罰は、小さく、柔らかな彼らの体には凄まじい衝撃であるばかりでなく、人を怖がり、攻撃性のあるフェレットにしてしまう可能性があります。

しかる時は、タイミングを逃さず迅速に、効果的な方法で行います。
心にゆとりを持って、根気強く教えてあげるようにしましょう。

●大切なお願い●

-- フェレットは生きています --

フェレットを飼うときはその命が終わるまで、飼い主としての責任と愛情をもって飼育してください。
全てのフェレットが、常に健康で人間の思い通りになるわけではありません。飼い主のわがままから途中で見放したり、世話を怠らないようにしましょう。その為にもフェレットの生態について飼い主がよく理解しておくことが、とても大切です。生き物は予測不可能な行動をすることがあります。飼育用品は数多く販売されていますが、全てをカバー出来る物ではありません。その用品が自分の飼っているフェレットに合っているか見極め、事故が起こる前に対応してあげるのも飼い主の責任です。

ペットの飼育は奥が深く、その生き物によって、それぞれ知っておかなければいけないことがあります。

この冊子を入り口に、より詳しい解説が載っている、専門の飼育書を読んで知識を深めるようにしてください。



Small Animal Products
株式会社 三晃商會
〒562-0035 大阪府箕面市船塚東2-3-54
TEL:072-728-3001 www.sanko-wild.com



飼い方ブックレット④



フェレットとの暮らしを楽しむ

Ferret Style フェレット・スタイル

フェレットと目と目が合った時、あなた的心は
その魅力に囚われてしまう事でしょう。
好奇心を体いっぱいに詰め込んで、彼らは
あなたが迎えに来てくれる事を待っています。

フェレットと生活を共にするために、必要な事柄を
考えて行きましょう!



寝るのも遊ぶのも食べるのも大好き！

フェレットは人のパートナーに適した
生き物ですが、一緒に暮らすためには
フェレットの生態に合った飼育方法で
正しく接する事が必要です。

用意しておきたい用品などを中心に、
彼らとの生活への入り口にご案内します。

SANKO

<http://www.sanko-wild.com/>

Y14
0321

フェレットとは

フェレットはイタチの仲間です。元は狩猟を目的としてヨーロッパケナガイタチを家畜化したものと言われています。性格は好奇心旺盛で活発、ポジティブで個性的。ある程度ルールを覚える事もできます。適切なコミュニケーションをとれば、かけがえの無い人生のパートナーとなるでしょう。

フェレットの住まい

フェレットを危険から守り、安心して過ごせるお部屋として、ケージを用意します。静かで室温が安定した、直射日光の当たらない明るい場所に置きましょう。その時ケージの近くに危険な物が無いか確かめます。イタズラ好きなフェレットは、カーテンや観葉植物、電源ケーブルなどが、手の届く場所にあると、ケージの中に引っ張り込んでしまう場合があるので注意が必要です。



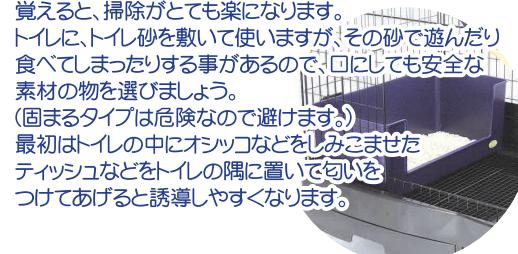
給水ボトル

いつでも新鮮な水が飲めるように、給水ボトルを用意します。中の水は、毎日入れ替えてあげて下さい。



トイレ

フェレットは空間の隅に排泄をしようとします。ケージの隅にトイレを設置して、その場所ですることを覚えると、掃除がとても楽になります。トイレに、トイレ砂を敷いて使いますが、その砂で遊んだり食べてしまったりする事があるので、口にしても安全な素材の物を選びましょう。(固まるタイプは危険なので避けます)最初はトイレの中にオシッコなどをしみこませたティッシュなどをトイレの隅に置いて匂いをつけてあげると誘導しやすくなります。



ケージ選び

フェレットが大人になった時の大きさを考えハンモックやトイレスなどの用品を置いても十分な広さがあり、網の目が細かく、フェレットの体がすり抜けない物を選びます。また、扉がしっかりと閉まるものが良いでしょう。

中には扉の開け方を覚えて抜け出してしまう場合もあるので念のため、ナスカンなどで、ロックしてあくと安心です。

大切な温度管理

フェレットの飼育の適温は18~23℃前後。ちょうど涼しい春くらいの温度が適温です。寒い地方の生き物ですので、暑さに弱いので注意が必要です。

夏場や暑い日などはエアコンで室温を調節してください。またフェレットは人間と違い汗をかいて体温を調節できないので扇風機を涼しいと感じる事ができません。(空調の風が当たる場所に置かないようにしてください)

エサ皿

フェレットは、一日に少しづつ数回に分けて食事をしますので、いつでもフードが食べれるようにしておきます。鼻先で皿を突きながら食べたり、イタズラでひっくり返そうとしたりする場合があるので、重みがあり倒しにくい浅めの皿が良いでしょう。毎日入れ替えて、鮮度を保つようにします。



ハンモック

フェレットはハンモックで眠るのが大好き。ケージの広さを有効に使うためにも、ハンモックを吊るしてあげましょう。もぐりこめるタイプは安心できる空間が作れるので初めてのお迎えにも最適です。季節によって保温や涼める物に変えてあげましょう。



フェレットの食事

・フェレットの食性とフード選び

天性のハンターであるフェレットは完全な肉食の生き物です。肉食と言っても、筋肉や筋だけを食べるのではなく、本来は獲物を狩って、肉や内臓、骨などを含めた全身を食べる事で、様々な栄養を補給してきました。腸が短く、植物の分解酵素などを持たない彼らは、植物性の要素を直接消化することができません。肉食の動物が必要としている食事のキーワードは「高タンパク」「高脂肪」「低纖維」です。

中でも良質な「動物性」のタンパク質を必要としています。飼育下では栄養調整されたフェレット専用のフードを与えると良いでしょう。成分数値だけを見て判断しないように注意し、原料表示の上位に良質な動物性の原料が使われているかどうか、確かめて選ぶようにします。



水

いつでも新鮮な水が飲めるように給水ボトルなどを利用して与えます。毎日、中の水は入れ替え、できれば朝夕2回入れ替えてあげてください。飲み水は基本的に水道水で充分です。人間が飲むミネラルウォーターや温泉水は適していないので、与えないようにしましょう。

補助食

原則的に、良質の主食フードを必要量摂れていれば必要が無いのですが、食欲が無い時や、しつけの補助、コミュニケーションのきっかけに効果的です。ただし、与えすぎは主食を食べなくなったり、肥満や虫歯の原因や、糖分が多い物を摂りすぎると病気を引き起こす可能性があるので与える量や頻度には注意が必要です。また、乳酸菌やビタミン剤など色々な効能が期待できるサプリメントがあります。獣医師と相談の上、体調に合わせて使用してあげると良いでしょう。



食べ物での注意と誤食

副食やあやつとしてフード以外の物を与える時は、それがフェレットに、どんな影響を与えるかを調べてからにするようにしてください。フェレットは、口にするものが食べて良いものかどうか自分で判断することができます。好奇心から、色々な物を食べようとしていますが、欲しがるからといって、不用意に食べさせてはいけません。中には人間が安全に食べられてもフェレットにとっては毒になるものもあり注意が必要です。また、人間用に加工されたものは与えないようにしましょう。



フェレットは誤食・誤飲の多い生き物です。食べ物でなくても、床に落ちているものや、観葉植物、噛み心地の良いものを、遊びながら食べてしまう事があります。腸などに詰まると命の危険も考えられますので、ケージの外に出して運動させるなどは目を離さないように注意してください。興味を示さないように、それらをあらかじめ取り除いておくことも必要です。

フェレットと遊ぶ

フェレットは遊ぶのが本当に大好きです。犬のように、外へ散歩の必要はありませんが、一日に一度はケージから出してやり、お部屋と一緒に遊んであげてください。穴もぐりや狩りごっこが大好きです。もぐって遊べる長いチューブのオモチャや猫じゃらし、音がするおもちゃも興味を持ちます。



ケージの外に出しているときは、フェレットが居る場所を確認しましょう。不意に足元に寄ってきたり、隙間やカーペットの下に潜りこんでいることに気が付かず、踏んでしまう事故が起こらないように、足元に注意してください。